

## 令和元年度 弘前大学学生海外PBL事業概要

部局名

人文社会科学部

区 分	内 容
事業名	アメリカ/フランス研修によるグローバルマインド育成と地域課題に対する意識涵養事業
指導教員	① ジャンソン、ミシェル
学生の所属	人文社会科学部文化創生課程多文化共生コース2年2名
渡航先(渡航期間)	ボルドー・モンテニュー大学(フランス・ボルドー市) 2019年9月7日(土)～9月22日(月)
	2019年 5月7日～ 事前調査 // 9月7日～ 渡航 // 9月10日～9月20日 (午前)語学研修(14, 15日はオフ) // 9月10日 (午後)ボルドー・モンテニュー大学日本語科の学生と交流 // 9月11, 13, 14, 19日 (午後)商店街、大型小売店見学 // 9月12, 18日 ワイン文化研究、ワイン工場視察 // 9月16, 17日 ボルドー市の町づくり視察・研究 // 9月22日 帰国
事業の概要 ※本事業の目的に照らして、設定した課題を明確にしつつ、事業の成果がはっきりとわかるように記載してください。	1. 目的: 研修を通じて語学を学びつつ、ボルドー・モンテニュー大学の学生と相互交流を深め、多文化社会への理解とグローバルマインドの向上を促す。また、弘前市と多くの共通点を持つボルドー市の歴史・文化や街づくりを学び、地域の在り方を違った角度から捉えることで、帰国後の地域社会への関わりを積極的なものにする。
	2. 事業概要: 語学研修でスキルを磨く他、ボルドー市民が交わる公共空間において日常生活を細かくリサーチし、直接対話などを通じて市民の意識や考え方を把握し、異文化への理解を深める。また、語学研修後の午後の時間を最大限使ってボルドー市内の様々な場所へ出かけ、街づくりの在り方をいろいろな角度から研究する。
	3. 設定した課題: 産業や人口、学都などの点で弘前市と共通点が多いボルドーの街をリサーチし、自分たちが暮らす地域の課題また優れた点を把握するとともに、課題については具体的解決策を見出すことが課題である。そのために自分の足で歩き、公共交通機関で移動し、現地の人と直接対話することが非常に重要となる。
	4. 期待される成果等: 課題を設定しそれをクリアするために継続的に観察・思考する力の獲得が期待できる。一般市民の暮らしや文化を知ることで異文化理解を深めていくことが望める。また、そのことによって、自分たちが暮らす地域が持つ積極的な面と改善すべき面を具体的に認識し、解決のための思考力を発展させていくことができる。

<p>事業実施の様子 ※ 事業実施の様子がわかる写真を貼り付けてください。 (最大6枚まで)</p>	 <p>【写真1:ワイン文化の視察】</p>	 <p>【写真2:アキテーヌ博物館見学】</p>
<p>今後の展望</p>	 <p>【写真3:ボルドー装飾芸術・デザイン美術館】</p>	 <p>【写真4:ワイン農場見学】</p>
	 <p>【写真5(左), 写真6(右):ボルドー・モンテーニュ大学教員と】</p>	

本事業は、人文社会科学部・多文化共生コースの教育理念を最も顕著に代表している科目「トラベルスタディーズ」の一つであり、今回で3度目の実施となっている。本事業は非英語圏での研修という点で、多文化の学びにおいて重要な意義を持っている。その中でも本学との長い交流の歴史を持つボルドーモンテーニュ大学において、本学学生はきめ細かい語学指導を受けることができ、そのことで語学力を向上させる大きな利点がある。参加学生の帰国後における学習意欲は非常に高く、ボルドー・モンテーニュ大学からの留学生に対し様々なサポートを行うなど、学んできた成果を継続的に発展させようとする努力が見られる。

本事業は開始以来これまでに多大な財政的支援を大学や関係者からいただいている。その甲斐あって、費用面から本来は参加が困難な学生にも門戸を開くことができている。費用面で難しい面の多い非英語圏での研修にとってこのことは特に大きな支援になっている。参加学生は入試広報活動に積極的に協力し、特にオープンキャンパスでのコース紹介では訪れる高校生らに自らの体験を語って本学で学ぶ魅力を伝えるなどの貢献を果たしている。以上のように、本事業はこれまでに様々な面で積極的な成果を得ており、今後ますますそれらを発展させ、学部だけでなく全学のグローバル教育推進に重要な貢献を果たすことが大いに期待できる。ぜひ、本事業の継続・発展のために、今後の支援を心よりお願いしたい。